「チョーク1本で教育改革を」
—模擬授業を活用し、教え方日本一、世界一を目指そう—
模擬授業の練習は不可能を可能にする

開倫塾

塾長 林 明夫

第10回全国模擬授業大会に御参加の皆様、全国各地、遠いところから、本年もようこそ日本最古の学校「足利学校」のある街、栃木県足利市においでくださいました。ありがとうございます。皆様の御来足を心より歓迎申し上げます。

本年で第10回を迎えるこの全国模擬授業大会は、第1回目から「チョーク1本で教育改革を」を合い言葉に、日々の授業を充実させることにより、各教育機関の社会的使命（missionミッション）を果たすことを目的とするものであります。

さて、「教育の成果を決定する要因」は何かといえば、「本人の自覚」と「先生の力量」であると考えられます。「本人の自覚」が不足すると、いくら力量のある先生が教えても教育の成果は十分に期待できないと思われます。その結果、「本人の自覚」を促すことも、「先生の力量」に含まれると考えます。

そこで、参加者の先生方には、第10回全国模擬授業大会でも「本人の自覚」を促すと考える内容も含めた模擬授業を展開するように予めお願い申し上げます。

学力とは何か、主体的に学ぶ力とは何か、何のために生きるのか、何のために学ぶのか、何のために進学をするのか、進学をして何を学ぶのか、今やっている勉強は世の中に出て役に立つのか、どのように学んだらよいのか、学び方を学ぶスキルを身につけるにはどうしたらよいのかなど、本人の自覚を促すと考えるお話を自由自在に模擬授業の中で展開して頂ければ幸いです。

また、年間の授業計画（シラバス）に基づき、授業ごとに「授業の設計」をした上で、「レッスンプラン」を書き上げ、「本日の目標」（本日の授業の結果どのようなことができるようになるか）や「Can Do（キャン・ドウ）」などを授業の初めに示し、塾生のモチベーションを向上させて頂きたく希望いたします。

NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の主人公の兄である吉田松陰先生も、囚われの身でありながら、同じ獄中の人々に学ぶ喜びを与えたと伝えられております。人々を教え導くことは、人の生き方として最も尊いことと考えます。一人の優れた先生の教えで、多くの人々がよりよく生きることができるようになり、その人なりの「人生の成功」を得られ、また、「社会が正常に機能する」ようになると確信いたします。

このように、教育の原点は日々の授業や指導にあります。「チョーク1本で教育改革を」はいつでも、どこでも可能です。この5月1日に封切られた東宝映画「ビリギャル—学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話—」や、その原作である坪田塾 坪田信貴先生の同名の著書は、高い志に基づいた教育改革の素晴らしい実践例です。本大会で励まし合う仲間をたくさんつくり、どうか頑張って参りましょう。

最後になりましたが、第10回全国模擬授業大会の開催にあたり、お忙しい中御来場頂きました御来賓の皆様、審査員の皆様、全国から御参加の先生方に心より御礼申し上げます。また、会場を提供していただきました白鷗大学足利高等学校の皆様、素晴らしい演奏を御披露していただきました足利市立富田中学校音楽部の皆様、会場の準備をしていただきました先生方はじめ関係者すべての皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

以上、大会主催者としての御挨拶と、心よりの御礼を申し上げます。

感謝